

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名：公民館講座等実施回数	指標の求め方：年度内に実施した市民大学講演会、公民館講座、公民館教室の開催回数
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名：公民館講座等受講者数	指標の求め方：公民館講座等受講者数

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期	
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	総合 計画 合計
指標	活動指標 1 (単位/回)	計画値 実績値	13 10	13 15	13 14		13	13	13		13	13	13	13		
	成果指標 1 (単位/人)	計画値 実績値	300 61	293 307	286 353		279	272	265		258	251	244	237		
事業 評価	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					達成されている										
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)					少し上がっている										
	事業の効率性 (事業費に対する成果)					上がっている										
	総合評価					極めて良好である										
	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 市民大学、公民館講座・教室の受講者数や実施回数は令和2年度よりは増加したが、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため事業を中止したことや参加人数の制限を行ったため、活動指標及び成果指標の計画値は下回っているが、学びの機会の公平性は一定程度確保されていることから、それなりの実績はあがっているものと評価する。	自己分析： 市民大学、公民館講座・教室の受講者数や実施回数は令和3年度よりは増加して学びの機会の公平性は一定程度確保されていることから、それなりの実績はあがっているものと評価する。	自己分析： 市民大学、公民館講座・教室の受講者数や実施回数は令和4年度より増加しており、学びの機会の公平性は一定程度確保されていることから、それなりの実績はあがっているものと評価する。	判断理由： 市民大学、公民館講座・教室の受講者数や実施回数は令和3年度よりは増加して学びの機会の公平性は一定程度確保されていることから、それなりの実績はあがっているものと評価し、「極めて良好である」と判断した。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：		
今後の方向性					現状のまま継続											
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)	R5： 各種の事業を行い、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与するため、「現状のまま継続」とした。					R8：					R10：					

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名：講座開催数	指標の求め方：年度内に開催した講座の数をカウント
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名：講座出席者数	指標の求め方：講座出席者数

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画					第7期
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	総合計 合計
指標	活動指標 1 (単位/講座)	計画値 実績値	5 0	5 0	5 0		4	4	4		3	3	3	3		
	成果指標 1 (単位/人)	計画値 実績値	50 -	50 -	50 -		40	40	40		30	30	30	30		
事業 評価	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					あまり達成されていない										
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)					あまり上がっていない										
	事業の効率性 (事業費に対する成果)					変わらない										
	総合評価					普通である										
	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 公民館に来館が困難な市民や地域の学習機会の提供、学習のきっかけ作り、また、公民館グループ・サークルの学習成果を地域に還元と いった効果が期待できる意義深い事業ではあるが、令和2年度よりもコロナ禍が深刻化したため、令和3年度も講座を開催することができなかった。このため、適切な評価をすることが困難である。	自己分析： 公民館に来館が困難な市民や地域の学習機会の提供、学習のきっかけ作り、また、公民館グループ・サークルの学習成果を地域に還元と いった効果が期待できる意義深い事業ではあるが、令和3年度に続き、令和4年度も講座を開催することができなかった。このため、適切な評価をすることが困難である。	自己分析： 公民館に来館が困難な市民や地域の学習機会の提供、学習のきっかけ作り、また、公民館グループ・サークルの学習成果を地域に還元と いった効果が期待できる意義深い事業ではあるが、令和5年度も講座を開催することができなかった。このため、適切な評価をすることが困難であるが、地域の学習機会を提供することは一定程度できている。	判断理由： 公民館に来館が困難な市民や地域の学習機会の提供、学習のきっかけ作り、また、公民館グループ・サークルの学習成果を地域に還元と いった効果が期待できる意義深い事業ではあるが、令和3年度に続き、令和4年度も講座を開催することができなかった。このため、適切な評価をすることが困難なため、「普通である」と判断した。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：		
今後の方向性					現状のまま継続											
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)	R5： 本事業は、継続的なグループ・サークルの活動ではなく、体験活動や見学の機会の提供として進めていくことから、「現状のまま継続」とした。					R8：					R10：					

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名：開館日数	指標の求め方：公民館の開館日数
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名：施設機能に起因する使用不能件数	指標の求め方：年度内における施設機能が起因して使用できない件数をカウント

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期	
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	総合計 合計
指標	活動指標 1 (単位/日)	計画値 実績値	359 234	359 359	359 359		359	359	359		359	359	359	359		
	成果指標 1 (単位/件)	計画値 実績値	0 0	0 0	0 0		0	0	0		0	0	0	0		
事業 評価	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					達成されている										
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)					変わらない										
	事業の効率性 (事業費に対する成果)					上がっている										
	総合評価					普通である										
	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 施設機能に起因する使用不能となった案件はなく、日常的・定期的な施設の保守管理業務を行うなど計画的な維持に努め、生涯学習の拠点機能を維持するための実績は一定程度上がっていると考える。	自己分析： 施設機能に起因する使用不能となった案件はなく、日常的・定期的な施設の保守管理業務を行うなど計画的な維持に努め、生涯学習の拠点機能を維持するための実績は一定程度上がっていると考える。	自己分析： 公民館全館に無線LANアクセスポイントを設置することにより、インターネット通信環境が整備された。	判断理由： 施設機能に起因する使用不能となった案件はなく、日常的・定期的な施設の保守管理業務を行うなど計画的な維持に努め、生涯学習の拠点機能を維持するための実績は一定程度上がっており、「普通である」と判断した。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：		
今後の方向性					現状のまま継続											
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)	R5： 定期的に施設の状態を点検・記録し、施設本体、設備又は備品等の破損、劣化頻度を把握しつつ、長期的な視点から最も低廉な費用で計画的な改修、管理を行うため、「現状のまま継続」と判断した。					R8：					R10：					

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名: 図書館行事・展示事業開催数	指標の求め方: 図書館行事・展示事業を開催した回数
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名: 市民一人当たり図書貸出冊数	指標の求め方: 年間貸出冊数÷年度末人口

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期	
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	総合 合計
指標	活動指標 1 (単位/回)	計画値 実績値	25 52	25 38	25 42		25	25	25		25	25	25	25		
	成果指標 1 (単位/冊)	計画値 実績値	3.9 2.8	3.9 3.1	4.0 3.4		4.0	4.1	4.1		4.2	4.2	4.3	4.3		
事業 評価	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					達成されている										
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)					あまり上がっていない										
	事業の効率性 (事業費に対する成果)					変わらない										
	総合評価					普通である										
	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析: 年間貸出冊数は前年度47,646冊であるのに対し、44,468冊と6.7%減となっており、市民一人当たりの年間貸出冊数も昨年度より減少している。新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のための臨時休館や閲覧利用自粛、事業の中止等の中、休館中の事前予約貸出の実施、感染対策を講じながらの事業実施等、コロナ禍の中で可能な限りの事業しており、実績は一定程度上がっている。 ※新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、開館日数が前年度より25日減。	自己分析: 年間貸出冊数は前年度44,468冊であるのに対し、49,761冊と11.9%増となっており、市民一人当たりの年間貸出冊数も昨年度より増加している。 ※照明LED化改修工事のため、9月1日～9月30日図書館休館。	自己分析: 年間貸出冊数は49,761冊に対し、52,253冊と5.0%の増となっており、市民一人当たりの年間貸出冊数も昨年度より増加している。	判断理由: 市民一人当たり図書貸出冊数の目標値を3.9冊としているところ、約3.1冊であったので目標とすると実績は得られてはいるが、図書館行事数は計画値を上回って開催しているため。	自己分析:	自己分析:	自己分析:	判断理由:	自己分析:	自己分析:	自己分析:	自己分析:	判断理由:		
今後の方向性					現状のまま継続											
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)			R5: 市民一人当たりの貸出冊数は目標を下回っているが、図書館行事開催数は目標値を上回っており、行事参加者におおむね好評であることから、現状を維持する方向で読書環境の充実を図る。				R8:				R10:					

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名：開館日数	指標の求め方：図書館の開館日数
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名：施設機能に起因する使用不能件数	指標の求め方：年度内における施設機能が起因して使用できない件数をカウント

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期	
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	総合 合計
指標	活動指標 1 (単位/日)	計画値 実績値	279 226	280 264	277 279		277	278	280		280	280	280	280		
	成果指標 1 (単位/件)	計画値 実績値	0 0	0 0	0 0		0	0	0		0	0	0	0		
事業 評価	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					達成されている										
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)					上がっている										
	事業の効率性 (事業費に対する成果)					変わらない										
	総合評価					普通である										
	評価内容	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 日常的・定期的な施設の保守管理業務を行うなど、計画的な維持につとめている。 ※新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、開館日数が前年度より25日減。 自己分析： 照明LED化改修工事を行い、館内の読書環境を整備し、一定程度利用環境は整えられた。また、日常的・定期的な施設の保守管理業務を行うなど、計画的な維持につとめている。 ※照明LED化改修工事のため、9月1日～9月30日図書館休館。 判断理由： 令和4年度に照明LED化改修工事を行い、必要な改修等を実施して施設機能の維持を図っていることから、利用環境は改善されている。	自己分析： 日常的・定期的な施設の保守管理業務を行うなど、計画的な維持につとめている。 判断理由： 令和4年度に照明LED化改修工事を行い、必要な改修等を実施して施設機能の維持を図っていることから、利用環境は改善されている。	自己分析： 日常的・定期的な施設の保守管理業務を行うなど、計画的な維持につとめている。 判断理由： 令和4年度に照明LED化改修工事を行い、必要な改修等を実施して施設機能の維持を図っていることから、利用環境は改善されている。	自己分析： 日常的・定期的な施設の保守管理業務を行うなど、計画的な維持につとめている。 判断理由： 令和4年度に照明LED化改修工事を行い、必要な改修等を実施して施設機能の維持を図っていることから、利用環境は改善されている。	自己分析： 日常的・定期的な施設の保守管理業務を行うなど、計画的な維持につとめている。 判断理由： 令和4年度に照明LED化改修工事を行い、必要な改修等を実施して施設機能の維持を図っていることから、利用環境は改善されている。	自己分析： 日常的・定期的な施設の保守管理業務を行うなど、計画的な維持につとめている。 判断理由： 令和4年度に照明LED化改修工事を行い、必要な改修等を実施して施設機能の維持を図っていることから、利用環境は改善されている。	自己分析： 日常的・定期的な施設の保守管理業務を行うなど、計画的な維持につとめている。 判断理由： 令和4年度に照明LED化改修工事を行い、必要な改修等を実施して施設機能の維持を図っていることから、利用環境は改善されている。	自己分析： 日常的・定期的な施設の保守管理業務を行うなど、計画的な維持につとめている。 判断理由： 令和4年度に照明LED化改修工事を行い、必要な改修等を実施して施設機能の維持を図っていることから、利用環境は改善されている。	自己分析： 日常的・定期的な施設の保守管理業務を行うなど、計画的な維持につとめている。 判断理由： 令和4年度に照明LED化改修工事を行い、必要な改修等を実施して施設機能の維持を図っていることから、利用環境は改善されている。	自己分析： 日常的・定期的な施設の保守管理業務を行うなど、計画的な維持につとめている。 判断理由： 令和4年度に照明LED化改修工事を行い、必要な改修等を実施して施設機能の維持を図っていることから、利用環境は改善されている。	自己分析： 日常的・定期的な施設の保守管理業務を行うなど、計画的な維持につとめている。 判断理由： 令和4年度に照明LED化改修工事を行い、必要な改修等を実施して施設機能の維持を図っていることから、利用環境は改善されている。	自己分析： 日常的・定期的な施設の保守管理業務を行うなど、計画的な維持につとめている。 判断理由： 令和4年度に照明LED化改修工事を行い、必要な改修等を実施して施設機能の維持を図っていることから、利用環境は改善されている。		
	今後の方向性					現状のまま継続										
	方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)		R5： 建設以来40年以上経過していることから、施設・設備の定期的な点検を行いながら、計画的な大規模修繕が必要である。				R8：				R10：					

第 7 期 総 合 計 画 事 務 事 業 進 行 管 理 調 書

【PLAN】

事務事業の目的と成果

総合戦略掲載	×	過疎計画掲載	○
--------	---	--------	---

事業名	図書充実事業				事業期間	昭和58年度 ～ 年度								
事業性質区分	新規・継続	継続	建設・建設外	建設外	第7期総合計画の位置付け	3-3-2	他に関連する基本事業	—	—	—	—	—	所管課係	図書館管理係
目的 (何のために実施するのか)	図書等の必要な資料を適切に収集、整理、保存しながら市民に供し、教養、調査研究等市民の自主的学習を支援する。							手段 (どのような方法で実現するのか)	利用者ニーズや図書の発刊の状況、蔵書の構成や図書の利用状況を見据え、計画的に図書等を整備し、適正に整理・保存できるようにしたうえ、これらに関して分かりやすく案内・提供するとともに、利用者等からの相談に応じる。					
対象 (誰・何を対象としているのか)	市民一般、団体							成果 (どのような効果が得られるのか)	より多くの市民に利活用されるようにすることにより、市民の教養の向上や地域課題の解決に繋がる糸口が見いだされる。					
事業開始時の状況・これまでの経緯	昭和57年度の図書館の開館と同時に事業を実施。													

【DO】

実績

(単位：円)

		第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画					第7期 総合計 計	
		第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合 計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合 計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合 計		
投入された事業費の推移	国 費	計 画 額				0				0					0	0
		予 算 計 上 額				0				0					0	0
	実 績 額				0				0					0	0	
	道 費	計 画 額				0				0					0	0
		予 算 計 上 額				0				0					0	0
	実 績 額				0				0					0	0	
	地 方 債	計 画 額				0				0					0	0
		予 算 計 上 額				0				0					0	0
	実 績 額				0				0					0	0	
	そ の 他	計 画 額				0				0					0	0
		予 算 計 上 額	2,156,000	2,176,000		4,332,000				0					0	4,332,000
	実 績 額	2,154,727	2,171,502		4,326,229				0					0	4,326,229	
	一 般 財 源	計 画 額	8,414,000	8,414,000	5,914,000	22,742,000	6,724,000	6,093,000	6,093,000	18,910,000	6,093,000	6,093,000	6,093,000	5,914,000	24,193,000	65,845,000
		予 算 計 上 額	5,914,000	5,914,000	6,203,740	18,031,740	6,724,000			6,724,000					0	24,755,740
		実 績 額	5,914,000	5,914,000	6,203,721	18,031,721				0					0	18,031,721
	事 業 費 合 計	計 画 額	8,414,000	8,414,000	5,914,000	22,742,000	6,724,000	6,093,000	6,093,000	18,910,000	6,093,000	6,093,000	6,093,000	5,914,000	24,193,000	65,845,000
		予 算 計 上 額	8,070,000	8,090,000	6,203,740	22,363,740	6,724,000	0	0	6,724,000	0	0	0	0	0	29,087,740
		実 績 額	8,068,727	8,085,502	6,203,721	22,357,950	0	0	0	0	0	0	0	0	0	22,357,950
事業費予算の内容	保守委託料 1,650千円 新刊データ委託 264千円 図書購入費 5,770千円 備品購入費 386千円	保守委託料 1,650千円 新刊データ委託 264千円 図書購入費 5,286千円 備品購入費 890千円	保守委託料 1,940千円 新刊データ委託 264千円 図書購入費 4,000千円		保守委託料 2,460千円 新刊データ委託 264千円 図書購入費 4,000千円											
	寄付金による増	寄付金による増	寄附金終了による減 保守委託料値上りによる増		保守料値上りによる増											
	前年度予算との比較 (増減理由)															
実績との比較 (増減理由)	執行残	執行残	執行残													

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名：年間貸出冊数	指標の求め方：年間の貸出冊数
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名：図書館業務に対する苦情件数	指標の求め方：年度間に寄せられる苦情件数をカウント

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期	
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	総合 合計
指標	活動指標 1 (単位/冊)	計画値 実績値	64,000 44,468	64,500 49,761	65,000 52,253		65,500	66,000	66,500		67,000	67,500	68,000	68,500		
	成果指標 1 (単位/件)	計画値 実績値	0 1	0 0	0 0		0	0	0		0	0	0	0		
事業 評価	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					あまり達成されていない										
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)					少し上がっている										
	事業の効率性 (事業費に対する成果)					変わらない										
	総合評価					普通である										
	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 貸出図書のリクエストに応えるなど、利用者ニーズに対して最大限配慮して事業を推進しており、年間貸出冊数は前年度と比較して6.7%減少しているが、前年度より休館期間が長かったため、1日当たりの貸出冊数(2年度：189.8冊→3年度：196.7冊)は増加している。 ※新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、開館日数が前年度より25日減。	自己分析： 貸出図書のリクエストに応えるなど、利用者ニーズに対して最大限配慮して事業を推進しており、年間貸出冊数は前年度と比較して11.9%増加している。 ※照明LED化改修工事のため、9月1日～9月30日図書館休館。	自己分析： 貸出図書のリクエストに応えるなど、利用者ニーズに対して最大限配慮して事業を推進しており、年間貸出冊数は前年度と比較して5.0%増加している。	判断理由： 令和4年度の年間貸出冊数は前年度と比較して11.9%増加しており、利用者のニーズはある程度満たしている。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：		
今後の方向性					現状のまま継続											
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)	R5： 読書ニーズや地域課題を把握し、市民にとって利用しやすい読書環境を整えていく。					R8：					R10：					

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名：夜間開館実施日数	指標の求め方：年度内に夜間開館を実施した日数をカウント
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名：市民一人当たりの夜間開館時貸出冊数	指標の求め方：夜間開館時に貸出した冊数÷年度末人口

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期	
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	総合 計画
指標	活動指標 1 (単位/日)	計画値 実績値	97 62	97 87	97 93		97	97	97		97	97	97	97		
	成果指標 1 (単位/冊)	計画値 実績値	0.15 0.08	0.15 0.11	0.15 0.11		0.15	0.15	0.15		0.15	0.15	0.15	0.15		
事業 評価	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					ほぼ達成されている										
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)					変わらない										
	事業の効率性 (事業費に対する成果)					変わらない										
	総合評価					普通である										
	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 日中図書館利用が困難な市民の学習機会を確保する意義は高く、夜間開館時に市民一人当たり貸出した冊数実績値は計画値に達していないが、夜間開館時の入館者数は増加している。 ※新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、当初予定より夜間開館日が7日減少。	自己分析： 日中図書館利用が困難な市民の学習機会を確保する意義は高く、夜間開館時に市民一人当たり貸出した冊数実績値は計画値に達していないが、夜間開館時の入館者数は増加している。 ※照明LED化改修工事のため、9月1日～9月30日図書館休館したことにより、当初の予定より5日減少。	自己分析： 日中図書館利用が困難な市民の学習機会を確保する意義は高く、夜間開館時に市民一人当たり貸出した冊数実績値は計画値に達していないが、夜間開館時の入館者数はほぼ横ばいである。	判断理由： 市民一人当たりの夜間開館時貸出冊数は令和3年度と比較すると令和4年度は目標値には達していないが夜間時の貸出冊数は増加しており、事業が市民に認知されている。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：		
今後の方向性					現状のまま継続											
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)	R5： 事業が利用者に対して認知されてきていることから当面は事業を継続していく。					R8：					R10：					

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)		指標名：補助金額				指標の求め方：年間補助金額									
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)		指標名：PTA活動の研修を受けた人数				指標の求め方：PTA連合会の研修会に参加した延べ人数									
		第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期	
		第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	総合計 合計
指標	活動指標 1 (単位/千円)	計画値 41	実績値 —	41	41	41	41	41	41	41	41	41	41		
	成果指標 1 (単位/人)	計画値 9	実績値 —	9	25	9	9	9	9	9	9	9	9		
事業 評価	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				達成されている										
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)				あまり上がっていない										
	事業の効率性 (事業費に対する成果)				変わらない										
	総合評価				普通である										
	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 新型コロナウイルスの影響により研修会が中止となったため、PTA連合会から補助金の申請がなく、各指標に該当する実績値はない。共働き家庭の増加や保護者の多忙などの状況の中、安定したPTA連合会の活動を支援するための事業としての意義は大きい。	自己分析： 活動指標は計画値を達成し、PTA連合会の活動促進に向け支援することができたが、成果指標は計画値を下回った。共働き家庭の増加や保護者の多忙などからPTA活動の向上、活性化には至らない面もあるが、安定したPTA連合会の活動を支援するための意義は大きい。	自己分析： 活動指標は計画値を達成し、PTA連合会の活動促進に向け支援することができた。成果指標は前年度を大きく上回り、計画値を達成した。新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、研修会等への参加のハードルが下がったことが要因と考えられる。PTA連合会活動や子育てに関する知識を得る機会となり、青少年の健全育成推進に繋がった。	判断理由： 活動指標は計画値を達成しているが、成果指標は計画値に及ばなかった。効率性については大きく変化していないことから、総合評価は「普通である」と判断した。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	
今後の方向性				現状のまま継続											
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)	R5： PTA活動に関する各種研修会等への参加経費を補助することは、保護者と学校が相互連携を深め、PTA活動の向上・活性化を後押しし、青少年の健全育成を推進するために必要な手段であることから、事務局等関係者からの求めに応じ情報提供等を行いながら「現状のまま継続」とする。				R8：				R10：						

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名：事業参加人数	指標の求め方：事業参加人数
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名：事業目的の達成度	指標の求め方：参加者アンケートで事業目的が達成されたと回答した人の割合

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期	
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	総合計 合計
指標	活動指標 1 (単位/人)	計画値 実績値	210 123	210 145	210 160		210	200	200		200	200	190	190		
	成果指標 1 (単位/%)	計画値 実績値	85 100	85 100	85 98.1		85	85	85		85	85	85	85		
事業 評価	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					ほぼ達成されている										
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)					上がっている										
	事業の効率性 (事業費に対する成果)					上がっている										
	総合評価					良好である										
	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 就学前の幼児と保護者を対象とした幼児の発達段階に応じた学びの体験活動の機会の提供を行った。新型コロナウイルス感染症の影響で事業の回数が減ったため、活動指標は計画値を下回ったが、参加者の満足度は高く、成果指標は計画値を上回った。(子育てひろば全5回中3回実施、アナログゲーム・クラブ全8回中4回実施)	自己分析： 新型コロナウイルス感染症の影響により参加者数が減少し活動指標は計画値を下回ったものの、参加者の満足度は高く成果指標を上回り、乳幼児期の子どもを持つ保護者に対し子育てに関する悩みの解消、家庭の教育力を学ぶ機会の提供を行うことができた。	自己分析： 活動指標は前年度より増加したものの計画値を達成しなかった。働く保護者が増加し多忙化していることや、プログラム内容によって定員を設けているため達成は難しい。成果指標は計画値を達成し、参加者の満足度は高く、乳幼児期の子どもを持つ保護者が交流し、子育てに関する悩みの解消や家庭教育力向上の機会を提供することができた。	判断理由： 新型コロナウイルス感染症の影響により活動指標は計画値に及ばなかったものの、成果指標は計画値を上回り、子育て家庭の孤立解消やつながりの構築、家庭教育力向上に一定の成果があった。効率性については、道の補助金を活用し、また市内及び近隣在住の講師に依頼することで講師謝礼が縮減されていることを踏まえ、総合評価は「良好である」と判断した。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：		
今後の方向性					現状のまま継続											
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)	R5： 少子化や核家族化の進行等により、子育て支援の面から乳幼児教育の充実を図ることが重要になってきていることから、事業内容の充実を図りながら「現状のまま継続」とする。					R8：					R10：					

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名：事業参加人数	指標の求め方：事業参加人数
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名：事業目的の達成度	指標の求め方：参加者アンケートで事業目的が達成されたと回答した人の割合

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期 総合計画 総合
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	
指標	活動指標 1 (単位/人)	計画値 実績値	300 135	290 145	290 183		290	290	280		50	50	50	50	
	成果指標 1 (単位/%)	計画値 実績値	100 100	100 92.4	100 99.1		100	100	100		100	100	100	100	
事業 評価	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					達成されている									
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)					変わらない									
	事業の効率性 (事業費に対する成果)					変わらない									
	総合評価					良好である									
	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 家庭教育に関する学習機会を提供することで家庭教育に必要な知識の習得が図られ、保護者の心身のリフレッシュの機会となった。また、各学校で創意工夫を凝らしていきいき家庭セミナーを実施している。新型コロナウイルス感染症の影響で事業の回数が減ったため、活動指標は計画値を下回ったが、成果指標となっている参加者の満足度は高かった。(いきいき家庭教育セミナー全7校及びPTA連合会1回中2校実施、ママさんリフレッシュセミナー全5回中4回実施)	自己分析： 新型コロナウイルス感染症の影響により開催件数が減少したため活動指標は計画値を下回った。また、各事業を凝らして実施したことにより参加者の満足度は高く、家庭教育に関する知識の習得や、保護者の心身のリフレッシュの機会を提供を行うことができた。(いきいき家庭セミナー全7校中3校及び市P連1回実施、ママさんリフレッシュセミナー全5回実施)	自己分析： 活動指標は前年度より増加したものの計画値を達成しなかった。働く保護者が増加し多忙化していることや、プログラム内容によって定員を設けているため、達成は難しい。成果指標は計画値を若干下回ったが、参加者の満足度は高く、家庭教育に関する知識の習得や、保護者の心身のリフレッシュ、交流を促進する機会の提供を行うことができた。	判断理由： 新型コロナウイルス感染症の影響により活動指標は計画値に及ばなかったものの、成果指標は計画値をほぼ達成し、家庭教育に必要な知識や技能の習得に対する活動を支援するとともに、子育てのストレス解消や親同士の交流する機会を提供することができた。効率性については、道の補助金を活用し、また市内及び近隣在住の講師に依頼することで講師謝礼縮減が図られていることを踏まえ、総合評価は「良好である」と判断した。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	
今後の方向性					現状のまま継続										
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)	R5： 家庭教育力の向上や子育て支援がこれまで以上に重要な課題となっていることから、事業内容の充実やママさんリフレッシュセミナーの実施にあたっては社会福祉部門とも連携を図りながら「現状のまま継続」とする。				R8：				R10：						

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名：家庭教育サポート企業の数	指標の求め方：登録数
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名：企業との連携事業数	指標の求め方：年間延べ回数

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期	
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	総合 合計
指標	活動指標 1 (単位/社)	計画値 実績値	94 94	94 93	94 93		94	94	94		94	94	94	94		
	成果指標 1 (単位/事業)	計画値 実績値	15 —	15 25	15 24		15	15	15		15	15	15	15		
事業 評価	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					ほぼ達成されている										
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)					少し上がっている										
	事業の効率性 (事業費に対する成果)					変わらない										
	総合評価					良好である										
	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 登録件数は、計画値と同数となった。新型コロナウイルス感染症の影響により職場体験等の事業が中止となったため、成果指標に該当する実績値はない。また、企業を訪問しての事業周知を行うことができなかった。	自己分析： 活動指標は企業の廃業により計画値を1件下回った。新型コロナウイルス感染症の影響がありながらも、企業と連携して家庭教育の支援の取り組みを行うことができ、成果指標は計画値を上回った。また、すべての事業所を訪問することはできなかったが、可能な限り事業周知や不審者・熊出没情報の共有を行った。	自己分析： 活動指標は前年度と変わらず、計画値に1件及ばなかった。成果指標は小学生の職場見学・体験活動や、中学生の職場体験の受入等、登録企業と連携して計画値を上回った。また、令和元年度以来4年ぶりに全登録企業への訪問を計画し、可能な限り訪問した。職場体験の受入状況の聞き取りや、家庭教育サポート企業の事業周知を行うことで、家庭教育やキャリア教育、安心安全なまちづくりの推進が図られた。	判断理由： 活動指標は計画値を若干下回ったが、成果指標は計画値を上回り、企業と連携して家庭教育の支援や社会教育事業を行い子どもを育てるよりよい環境づくりの推進に一定の成果があった。効率性については、事業にかかる直接的な経費を必要とせず大きく変化していないことを踏まえ、総合評価は「良好である」と判断した。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：		
今後の方向性					現状のまま継続											
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)	R5： 共働き世帯の増加により家庭の教育力低下が社会的な課題となっている中、家庭教育を担う保護者が多くの時間を過ごす職場が家庭教育に協力的であること、企業と行政が家庭教育支援について連携を深めることが重要であることから、さらなる事業の浸透を図る必要があるため「現状のまま継続」とする。					R8：					R10：					

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名: 事業参加人数	指標の求め方: 事業参加人数
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名: 事業目的の達成度	指標の求め方: 保護者向け参加者アンケートで事業目的が達成されたと回答した人の割合

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期 総合計画 合計
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	
指標	活動指標 1 (単位/人)	計画値 実績値	170 69	170 109	170 129		170	170	160		160	160	160	160	
	成果指標 1 (単位/%)	計画値 実績値	100 100	100 100	100 98		100	100	100		100	100	100	100	
事業 評価 内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					ほぼ達成されている									
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)					変わらない									
	事業の効率性 (事業費に対する成果)					変わらない									
	総合評価					良好である									
	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析: 保護者や地域の方との関わりの中で、地域の教育力と子どもたちの「たくましく生きる力」が高まった。また、協議会会員の今まで培ってきた知識や経験が地域づくりやボランティア活動の推進につながっている。新型コロナウイルス感染症の影響等により夏の体験学習事業のみの実施となったため、活動指標は計画値を下回ったが、成果指標となっている参加者の満足度は高かった。	自己分析: 新型コロナウイルス感染症の影響がありながらも予定通り年4回の事業を実施した。活動指標は計画値を下回ったが、成果指標は計画値を達成し、参加者の満足度は高く、自然体験学習を通して家庭の教育力向上やたくましく主体的に活動する子どもの育成を図ることができた。	自己分析: 活動指標は前年度より増加したものの、計画値を達成しなかった。プログラム内容によって定員を設けているため計画値を達成するのは難しい。成果指標は計画値を若干下回ったが、参加者の満足度は高く、自然体験学習を通して家庭教育力向上やたくましく主体的に活動する子どもの育成を図ることができた。	判断理由: 活動指標は計画値に及ばないものの、成果指標は令和元年度以降90%以上の高水準で推移しており、地域資源を活かした様々な自然体験学習事業として定着している。効率性については、事業の経費をできる限り削減し大きく変化していないことを踏まえ、総合評価は「良好である」と判断した。	自己分析:	自己分析:	自己分析:	判断理由:	自己分析:	自己分析:	自己分析:	自己分析:	判断理由:	
今後の方向性					現状のまま継続										
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)	R5: 砂川の豊かな自然を体験する野外活動を継続して実施するため、主催団体であるすなわ子どもセンター協議会の体制の維持を図るとともに、より充実した事業内容となるよう検討を行いながら「現状のまま継続」とする。				R8:				R10:						

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名：事業参加人数	指標の求め方：育成者、地域ボランティアなど事業の運営に参画した者の人数
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名：事業参加人数	指標の求め方：事業参加人数

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画					第7期 総合計画 合計
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	
指標	活動指標 1 (単位/人)	計画値 実績値	40 —	40 —	40 16	40	40	40	40	40	40	40	40	30		
	成果指標 1 (単位/人)	計画値 実績値	280 —	270 —	270 115		270	270	260		260	260	250	250		
事業 評価 内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					あまり達成されていない										
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)					あまり上がっていない										
	事業の効率性 (事業費に対する成果)					変わらない										
	総合評価					問題がある										
	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 子ども会相互の連携や交流のための機会となるよう、幅広く参加を呼びかけ一堂に会した事業を実施する方向性であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により子ども会育成事業が中止となったため、各指標に該当する実績値はない。	自己分析： 子ども会相互の連携や交流のための機会となるよう、幅広く参加を呼び掛け一堂に会した事業を実施するため準備を進めていたが、新型コロナウイルス感染症の影響により事業が中止となったため、各指標に該当する実績値はない。	自己分析： 活動指標は計画値に達しなかったが、地域ボランティアや砂川高校生徒の協力を得て4年ぶりに開催することができた。成果指標は計画値の半分にも及ばなかったが、コロナ禍を経た社会活動の低下や少子化の影響を受けながらも、たくさんの子どもの参加があった。地域ボランティア等の多くの協力により、「地域で子どもを育てる」風土の醸成が図られた。	判断理由： 新型コロナウイルス感染症の影響により事業を中止したため活動指標・成果指標ともに数値化できないが、子ども会活動の低迷に伴い、スタッフ・ボランティアともに減少しており、事務局の負担が増し、事業の企画・運営体制を維持することが困難となってきたため「問題がある」と判断した。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：		
今後の方向性					現状のまま継続											
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)	R5： 単位子ども会の実態等を踏まえた事業を企画しており、例年多くの子どもが参加する事業となっている。事業（ジャリン子夏祭り）としては継続したいところだが、スタッフ・ボランティアの減少により企画運営体制を維持することが困難となってきた。今後の方向性については「現状のまま継続」とするが、多くの関係機関と連携し事務局の負担軽減を図りながら事業実施形態の見直しを考えていく必要がある。					R8：					R10：					

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名：事業参加人数	指標の求め方：事業参加人数
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名：事業の満足度	指標の求め方：参加者アンケートで「とても楽しかった」、「楽しかった」と回答した人の割合

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画					第7期	
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	総合 合計	
指標	活動指標 1 (単位/人)	計画値 実績値	90 —	90 28	90 49		90	90	90		80	80	80	80			
	成果指標 1 (単位/%)	計画値 実績値	100 —	100 96.4	100 100		100	100	100		100	100	100	100			
事業 評価	評価内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				あまり達成されていない											
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)				少し上がっている											
		事業の効率性 (事業費に対する成果)				変わらない											
		総合評価				普通である											
		総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 国際交流ふれあい委員会の自主的な企画運営のもと概ね良好に事業展開されている。新型コロナウイルス感染症の影響によりメイン事業を中止して内容を変更しての事業実施となったため、各指標に該当する実績値はない。	自己分析： 新型コロナウイルス感染症の影響がありながらも予定通り年2回の事業を実施した。活動指標は計画値を大きく下回ったが、成果指標はほぼ計画値を達成し、参加者の満足度は高く、国際社会への興味・関心を持たせることに繋がっている。	自己分析： 活動指標は前年度より増加したものの、計画値を達成しなかった。プログラム内容によって定員を設けているため計画値を達成するのは難しい。成果指標は計画値を達成し、外国人と交流し文化に触れることで国際社会への興味・関心を持たせることに繋がっている。	判断理由： 活動指標は計画値に及ばないものの成果指標はほぼ計画値を達成し、海外の文化・風習・言語に親しむ事業として定着している。効率性については、事業の経費をできる限り削減し大きく変化していないことを踏まえ、総合評価は「普通である」と判断した。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：		
	今後の方向性				現状のまま継続												
	方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)	R5： 小学校で外国語学習が行われていることから、子どもたちが外国人と豊かにふれあえる事業を展開していくために、主催団体である国際交流ふれあい委員会が主体的に企画運営できるよう協力体制を維持しながら「現状のまま継続」とする。				R8：				R10：							

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名：放課後子ども教室の延参加人数	指標の求め方：事業参加人数
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名：安全安心な居場所の推進率	指標の求め方：参加者アンケートで放課後子ども教室が安心安全な居場所づくりになっていると回答した登録児童の保護者の割合

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期 総合計画 合計
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	
指標	活動指標 1 (単位/人)	計画値 実績値	3,180 2,684	1,800 2,231	1,670 2,170		1,650	1,620	1,620		—	—	—	—	
	成果指標 1 (単位/%)	計画値 実績値	100 99	100 97.5	100 97.9		100	100	100		—	—	—	—	
事業 評価 内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					達成されている									
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)					変わらない									
	事業の効率性 (事業費に対する成果)					変わらない									
	総合評価					良好である									
	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 子どもたちの安全安心な居場所を確保するとともに、地域住民の参画により、地域ぐるみで子どもを育む環境が整えられている。 新型コロナウイルス感染症対策のため、活動内容を一部制限して実施した。また、1月26日からの期間、年度内の事業を中止したため、活動指標は計画値を下回ったが、成果指標となっている安全安心な居場所の推進率は高く、概ね計画値を達成した。	自己分析： 様々な体験活動を通して地域住民や異年齢同士の交流を深める事業として浸透しており活動指標は計画値を大きく上回った。 子どもたちの安心・安全な居場所づくりとしての評価は高く、成果指標はほぼ計画値を達成した。	自己分析： 活動指標は計画値を大きく上回り、様々な体験活動を通して地域住民や異年齢同士の交流を深める事業として浸透している。成果指標は計画値をほぼ達成し、保護者の満足度は高く、子どもたちの安心安全な居場所づくりが推進された。	判断理由： 活動指標は計画値を大きく上回り、成果指標もほぼ計画値を達成していることから、心豊かで健やかに育まれる環境づくりが推進できている。 効率性については、道の補助金を活用し経費の縮減を図っており大きく変化していないことを踏まえ、総合評価は「良好である」と判断した。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	
今後の方向性					現状のまま継続										
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)	R5： 地域全体で子どもを育む環境のより一層の整備を図るため、放課後子ども教室の活動や趣旨を広く周知し、サポーターの確保や地域住民の参加機会の拡充のための取組みを行いながら「現状のまま継続」とするが、令和8年度の義務教育学校開設に向けて、義務教育学校の日課、スクールバスの運行状況、学童保育所の運営方法等を踏まえて実施方法等を検討する必要がある。				R8：				R10：						

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名：参加延人数	指標の求め方：事業参加人数
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名：事業内容の理解度	指標の求め方：アンケートで参加者がプログラミングのことが分かったと回答した人の割合

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期	
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	総合計 合計
指標	活動指標 1 (単位/人)	計画値 実績値	60 28	60	60		60	60	60		60	60	60	60		
	成果指標 1 (単位/%)	計画値 実績値	100 100	100	100		100	100	100		100	100	100	100		
事業 評価 内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					あまり達成されていない										
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)					上がっている										
	事業の効率性 (事業費に対する成果)					あまり上がっていない										
	総合評価					普通である										
	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 夏季・冬季の休業期間中を利用し、学習に対する関心・意欲を高めることを目的にプログラミングについて体験した。新型コロナウイルス感染症対策のため、募集定員を制限して実施したため、活動指標は計画値を下回ったが、成果指標となった事業内容の理解度は高かった。GIGAスクール構想で児童生徒に1人1台タブレット端末が配布されたことから、役割は終了したと判断し、令和4年度より高齢者向けのデジタル活用支援に移行した。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由： 新型コロナウイルス感染症対策のため募集定員を制限して実施したため活動指標は計画値を下回ったが、成果指標は計画値を達成し、プログラミング的思考を理解し活用していく力を身につけることに一定の成果があったと考える。効率性については、地域人材の活用が難しく、管外から講師を招くこととなり講師謝礼が増えたことから、総合評価は「普通である」と判断した。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	
今後の方向性					完了											
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)		R5： 「プログラミング体験教室推進事業」については、GIGAスクール構想により児童生徒に1人1台タブレット端末が配付され、日常的に授業の中で学習機会が確保されていることから事業の役割は終了したと判断し、令和4年度以降実施しないこととした。				R8：				R10：						

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)			指標名：参加人数				指標の求め方：事業参加人数									
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)			指標名：防災意識が向上した参加者の割合				指標の求め方：アンケートで参加者が事業に参加して防災に対する意識が向上したと回答した参加児童の割合									
			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期	
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	総合計 合計
指標	活動指標 1 (単位/人)	計画値 実績値	20 —	20 8	20 9		— —	20 100	— —		20 100	— —	20 100	— —		
	成果指標 1 (単位/%)	計画値 実績値	100 —	100 100	100 100		— —	100 —	— —		100 —	— —	100 —	— —		
事業 評価	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					あまり達成されていない										
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)					変わらない										
	事業の効率性 (事業費に対する成果)					変わらない										
	総合評価					普通である										
	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 令和3年度は新型コロナウイルス感染症のため子ども防災教室を中止し、令和4年度に実施することとしたため、各指標に該当する実績値はない。事業当日参加者に配付していた「防災ハンドブック」を関係部署の協力を得て製本し、市内小中学校全児童・生徒・教職員に配付することにより、災害への備えを啓発した。	自己分析： 各小学校で実施している「1日防災教室」と事業内容が類似していたためか、令和4年度に防災教室を実施した小学校からの参加者がなく活動指標は計画値を下回った。成果指標は計画値を達成し、防災に関する知識や技能を学ぶ機会を提供することができた。	自己分析： 活動指標は計画値の半分にも及ばず、目的地的な長時間のバス移動が参加のハードルを上げたものと考えられる。成果指標は計画値を達成し、防災意識を高める機会を提供することができた。各小学校で実施されている1日防災教室と類似しないよう、教育委員会ならではの内容で事業の在り方を考えていく必要がある。また、「防災ハンドブック」についても教育委員会が発行する意義を考え、実施の是非を検討する。	判断理由： 活動指標は計画値を下回ったが、成果指標は計画値を達成し、一定程度災害に対する理解を深めることができた。効率性については、大きく変化していないことを踏まえ、総合評価は「普通である」と判断した。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：		
今後の方向性					手段の見直し											
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)	R5： 北海道教育委員会の「1日防災学校」実施要綱に基づき、市内小中学校持ち回りで授業等を実施することとなっていることから、その内容を把握しながら社会教育事業として必要な学習機会は何か実施方法も含め検討・協議が必要であるため、今後の方向性については「手段の見直し」とした。					R8：					R10：					

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名：出場者数・来場者数	指標の求め方：事業に出場した生徒または児童の数と来場者の人数
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名：事業の達成度	指標の求め方：アンケートで出場者が学んだことがあった、来場者が目的が達成できたと回答した人の割合

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期 総合計画 合計
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	
指標	活動指標 1 (単位/人)	計画値 実績値	90 22	90 25	90 58		90	90	80		80	80	80	80	
	成果指標 1 (単位/%)	計画値 実績値	85 100	85 92	85 97.9		85	85	85		85	85	85	85	
事業 評価 内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					ほぼ達成されている									
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)					変わらない									
	事業の効率性 (事業費に対する成果)					変わらない									
	総合評価					良好である									
	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 令和3年度は、新型コロナウイルス感染症対策として観覧に制限を設けて実施したため、活動指標は計画値を下回ったが、成果指標となっている事業の達成度は高かった。中学生の思いや考えを広く市民に知ってもらうため、発表者全員の主張文を「オアシス通信」に掲載し青少年の健全育成に対する市民の理解を深める契機となっている。	自己分析： 昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症対策として観覧に制限を設けて実施したため、活動指標は計画値をほぼ達成し、事業の満足度は高かった。中学生の思いや考えを広く市民に知ってもらうため、発表者全員の主張文を「オアシス通信」に掲載し青少年の健全育成に対する市民の理解を深める契機となっている。	自己分析： 令和5年度は観覧に制限を設けず開催した。活動指標は計画値を達成しなかったが、前年度を上回る来場者数であった。成果指標は計画値を達成し、出場者及び来場者の満足度は高い。また、中学生の思いや考えを広く市民に知ってもらうため、出場者全員の主張文を「オアシス通信」に掲載し、青少年の健全育成に対する市民の理解を深める契機となった。	判断理由： 新型コロナウイルス感染症対策のため活動指標は計画値に及ばなかったが、成果指標は計画値をほぼ達成し事業の満足度は高く、青少年の健全育成に対する市民の理解を深めることに一定の成果があった。効率性については大きく変化していないことを踏まえ、総合評価は「良好である」と判断した。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	
今後の方向性					現状のまま継続										
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)	R5： 中学生が自分の考えを市民に伝える体験を通して考えをさらに深めるとともに、市民が青少年の健全育成に対する理解を深める機会として有意義であり、今後も継続していきたい事業であるため、中学校統合による開催方法の見直しや、担当教諭の負担軽減のため運営方法について検討する必要がある。					R8：					R10：				

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名：参加人数	指標の求め方：強調週間の延べ参加人数
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名：安心安全なまちづくりの推進度	指標の求め方：参加者アンケートで地域のコミュニケーションが図られたと回答した人の割合

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期 総合計画 合計
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	
指標	活動指標 1 (単位/人)	計画値 実績値	3,377 18	3,377 11	3,377 2,929		3,377 90	3,377 90	3,377 90		3,377 90	3,377 90	3,377 90	3,377 90	
	成果指標 1 (単位/%)	計画値 実績値	90 —	90 —	90 90.3		90 —	90 —	90 —		90 —	90 —	90 —	90 —	
事業 評価	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					ほぼ達成されている									
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)					変わらない									
	事業の効率性 (事業費に対する成果)					変わらない									
	総合評価					良好である									
	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 新型コロナウイルス感染症の影響により実施方法を変更したため、活動指標は計画値を大きく下回り、また、成果指標に該当する実績値はない。 事業として定着しており、地域で子どもを見守る環境作りの醸成に寄与している。	自己分析： 昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響により実施方法を変更したため、活動指標は計画値を大きく下回った。また、成果指標に該当する実績値はない。	自己分析： 新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げられたため、4年ぶりに通学路等の街頭でのあいさつ運動を再開した。 活動指標は計画値を下回ったが、コロナ禍を経て社会活動が低下したなかにあっても多くの市民の参加を得て再開することができた。 成果指標は計画値を達成し、子どもたちと地域の関りを深め、安全・安心なまちづくりを推進した。	判断理由： 新型コロナウイルス感染症の影響により実施方法が社会教育課職員による街宣車での呼び掛け活動のみの実施となり、達成度・成果について実績値で評価することは難しいが、これまでの取組みにより子どもとのかかわりを深める機会、地域に集う大人たちの情報交流やコミュニケーションの場として定着している事業である。 効率性については大きく変化していないことを踏まえ、総合評価は「良好である」と判断した。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	
今後の方向性					現状のまま継続										
方向性の判断理由改善、改革の内容(R5、R8、R10)	R5： 新型コロナウイルス感染症の影響により社会教育課職員による街宣車での呼び掛け活動のみの実施となったため市民参加は得られなかったが、令和5年度に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に引き下げられたことに伴い、参加者も回復していくものと考え、学校・家庭・地域住民と子どもがコミュニケーションを図るきっかけづくりを推進するため「現状のまま継続」とする。 また、令和8年度の学校統合に向けて、スクールバス停留所の配置等を踏まえ、実施方法等を検討していく必要がある。				R8：				R10：						

第 7 期 総 合 計 画 事 務 事 業 進 行 管 理 調 査

【PLAN】

事務事業の目的と成果

総合戦略掲載	×	過疎計画掲載	×
--------	---	--------	---

事業名	青少年問題協議会運営事業				事業期間	昭和37年度 ～ 年度									
事業性質区分	新規・継続	継続	建設・建設外	建設外	第7期総合計画の位置付け	3-3-4	他に関連する基本事業	—	—	—	—	—	—	所管課係	社会教育課社会教育係
目的 (何のために実施するのか)	青少年の指導、育成及び保護についての調査検討を行い、必要に応じ各種情報資料の交換、収集並びに関係機関の活動の促進を図るなど具体的対策の樹立に関する事務をつかさどる。						手段 (どのような方法で実現するのか)	青少年の健全育成に関する諸課題を関係行政機関と調整を図り、意見を述べる。							
対象 (誰・何を対象としているのか)	青少年問題協議会委員						成果 (どのような効果が得られるのか)	関係行政機関が一同に会し出席できる機会を設けることにより、青少年の健全育成に関する諸課題の情報共有や調整を図ることができる。							
事業開始時の状況・これまでの経緯	青少年問題協議会委員は、定数を13人以内、任期は2年とし、教育委員会教育長、関係行政機関の職員及び青少年の指導、育成等に係る組織団体において活動する方により組織されている。また、青少年問題協議会の会長は教育委員会教育長とし、互選により副会長1人を置く。														

【DO】

実績

(単位：円)

		第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画					第7期 総合 合計	
		第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計		
投 入 さ れ た 事 業 費 の 推 移	国 道	費 計 画 額				0				0					0	0
		予 算 計 上 額				0				0					0	0
		実 績 額				0				0					0	0
		費 計 画 額				0				0					0	0
		予 算 計 上 額				0				0					0	0
		実 績 額				0				0					0	0
	地 方 債	計 画 額				0				0					0	0
		予 算 計 上 額				0				0					0	0
		実 績 額				0				0					0	0
		計 画 額				0				0					0	0
		予 算 計 上 額				0				0					0	0
		実 績 額				0				0					0	0
そ の 他	計 画 額				0				0					0	0	
	予 算 計 上 額				0				0					0	0	
	実 績 額				0				0					0	0	
	計 画 額				0				0					0	0	
	予 算 計 上 額				0				0					0	0	
	実 績 額				0				0					0	0	
一 般 財 源	計 画 額	42,000	42,000	42,000	126,000	42,000	42,000	42,000	126,000	42,000	42,000	42,000	42,000	168,000	420,000	
	予 算 計 上 額	42,000	42,000	42,000	126,000	42,000			42,000					0	168,000	
	実 績 額	24,510	39,130	39,180	102,820				0					0	102,820	
事 業 費 合 計	計 画 額	42,000	42,000	42,000	126,000	42,000	42,000	42,000	126,000	42,000	42,000	42,000	42,000	168,000	420,000	
	予 算 計 上 額	42,000	42,000	42,000	126,000	42,000	0	0	42,000	0	0	0	0	0	168,000	
	実 績 額	24,510	39,130	39,180	102,820	0	0	0	0	0	0	0	0	0	102,820	
事 業 費 予 算 の 内 容	委員報酬 39千円 費用弁償 3千円	委員報酬 39千円 費用弁償 3千円	委員報酬 39千円 費用弁償 3千円		委員報酬 39千円 費用弁償 3千円											
	同額	同額	同額		同額											
	前年度予算との比較 (増減理由)															
実 績 と の 比 較 (増減理由)	会議委員欠席及び 辞退者分の減	会議委員欠席及び 辞退者分の減	会議委員欠席及び 辞退者分の減													

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名：参加人数	指標の求め方：出席委員数
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名：委員出席率	指標の求め方：出席委員数/委員数

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期 総合計画 合計
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	
指標	活動指標 1 (単位/人)	計画値 実績値	12 11	12 11	12 12		12 12	12 12	12 12		12 12	12 12	12 12	12 12	
	成果指標 1 (単位/%)	計画値 実績値	100 92	100 92	100 100		100 100	100 100	100 100		100 100	100 100	100 100	100 100	
事業 評価	評価内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				ほぼ達成されている									
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)				変わらない									
		事業の効率性 (事業費に対する成果)				変わらない									
		総合評価				普通である									
		総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 年間1回の会議で委員の変更もあり、協議会の趣旨の理解、善行青少年表彰者の決定や警察からの情報提供等を行った。活動指標、成果指標とも計画値を下回ったが、青少年問題の共通認識を深めた。	自己分析： 活動指標・成果指標ともに若干計画値を下回ったが、情報交換等を行い、青少年の健全育成・非行防止を図り、共通認識を深めた。	自己分析： 活動指標・成果指標ともに計画値を達成した。情報交換等を行い、青少年の健全育成・非行防止・安全確保に向けて共通認識を深めた。	判断理由： 活動指標・成果指標ともに若干計画値を下回ったが、青少年の健全育成に関わる団体の代表者が一堂に会し情報共有を行うことは、非行防止や安全確保に関する対応につなげることができ体制づくりに一定の成果があったと考える。 効率性については大きく変化していないことを踏まえ、総合評価は「普通である」と判断した。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：
今後の方向性				現状のまま継続											
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)	R5： 児童・生徒を取り巻く環境が複雑化・多様化している状況の中で、関係団体間の連携が不可欠であり、協議会の開催内容の充実を図りながら「現状のまま継続」とする。				R8：				R10：						

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名：推進会議の延べ出席者数	指標の求め方：推進会議の延べ出席者数
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名：推進員の会議参加率	指標の求め方：参加人数/推進員数

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期 総合計画 総合
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	
指標	活動指標 1 (単位/人)	計画値 122 実績値 131	122 128	122 114		119	119	119		54	54	54	54		
	成果指標 1 (単位/%)	計画値 90 実績値 91	90 89	90 86		90	90	90		90	90	90	90		
事業 評価	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				達成されている										
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)				変わらない										
	事業の効率性 (事業費に対する成果)				変わらない										
	総合評価				良好である										
	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 推進員が定例で月1回情報交換や問題を協議することで市内の関係者間で一貫した共通認識が図られ、非行の未然防止や拡大阻止に役立っている。活動指標は計画値を上回っており、成果指標はほぼ計画値と同じとなっている。	自己分析： 活動指標は計画値を上回っており、成果指標は計画値をほぼ達成した。推進員が定例で月1回情報交換や問題点の協議を行うことで市内の関係機関で共通認識が図られ、非行防止や安全確保に繋がっている。	自己分析： 令和5年度に砂川中と石山中が統合し、推進員数が1名減少したため、活動指標は計画値に達しなかった。成果指標は計画値を若干下回ったが、毎月1回定例で情報交換や問題点の協議を行うことで市内関係機関の共通認識を深め、非行防止や安全確保が図られた。	判断理由： 活動指標・成果指標ともに計画値どおりとなり、青少年の健全育成・非行防止・安全確保に一定の成果があった。効率性については大きく変化していないことを踏まえ、総合評価は「良好である」と判断した。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	
今後の方向性				現状のまま継続											
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)	R5： 情報交換に留まらず、重要案件や学校の指導のみで終結しない案件について、警察を交え協議し、進捗状況を情報共有する体制を維持するため「現状のまま継続」とする。				R8：				R10：						

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名: 世話人の参加人数	指標の求め方: 世話人の参加人数
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名: 新成人の参加率	指標の求め方: 新成人参加人数/新成人参加対象数

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期 総合計画 合計
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	
指標	活動指標 1 (単位/人)	計画値 実績値	10 10	10 11	10 6		10	10	8		8	8	8	8	
	成果指標 1 (単位/%)	計画値 実績値	70 69	70 67.9	70 70.4		70	70	70		70	70	70	70	
事業 評価 内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					達成されている									
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)					変わらない									
	事業の効率性 (事業費に対する成果)					少し上がっている									
	総合評価					良好である									
	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析: 新成人の人口減少や市外転出等により新成人世話人が減少傾向にあるが、新成人が主体的に事業の企画段階から参画できる体制を維持しながら実施できている。新型コロナウイルス感染症の影響から成果指標は計画値に及ばなかったが、成人同士のつながりを再確認し、地元への愛着心を深めることができた。	自己分析: 活動指標は計画値を達成し、人口減少や市外転出等により対象者が減少するなか、成人が主体的に事業の企画段階から参画する体制を維持した。新型コロナウイルス感染症の影響から成果指標は計画値に及ばなかったが、成人同士のつながりを再確認し、地元への愛着心を深めることができた。	自己分析: 人口減少や市外転出等により世話人の担い手が減少し、活動指標は計画値に達しなかった。成果指標は計画値を達成し、厳粛な式典と世話人の企画による交流を通じて、故郷砂川を再認識できる場を提供することができた。	判断理由: 成果指標が計画値に及ばなかったものの、成人が世話人会を組織し主体的に成人式(はたちの集い)の内容を企画・運営することは、交流を通じて郷土の良さを再認識できる機会となっており、地元への愛着心を深めることに一定の成果があった。参加者の出欠確認をハガキから二次元コードに変更し、経費の縮減を図られ効率性は若干上がっており、総合評価は「良好である」と判断した。	自己分析:	自己分析:	自己分析:	判断理由:	自己分析:	自己分析:	自己分析:	自己分析:	判断理由:	
今後の方向性					現状のまま継続										
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)	R5: 成人が世話人会を組織し、主体的に参画・運営する成人式(はたちの集い)は地域ぐるみで成人の人生の節目を祝福する機会となっている。故郷砂川を再認識できる場として重要であり、引き続き成人主体となるよう「現状のまま継続」とする。				R8:				R10:						

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名：事業参加人数	指標の求め方：事業参加人数
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名：事業の満足度	指標の求め方：参加者アンケートで「とても楽しかった」、「楽しかった」と回答した参加児童の割合

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第7期		
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	総合計 合計	
指標	活動指標 1 (単位/人)	計画値 実績値	40 —	40 20	40 22		40	40	40		40	40	40	40			
	成果指標 1 (単位/%)	計画値 実績値	100 —	100 100	100 100		100	100	100		100	100	100	100			
事業 評価	評価内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				ほぼ達成されている											
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)				上がっている											
		事業の効率性 (事業費に対する成果)				変わらない											
		総合評価				良好である											
		総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 家庭教育サポート企業の協力を得て実施する事業としている。新型コロナウイルス感染症の影響により中止となったため、各指標に該当する実績値はない。	自己分析： 新型コロナウイルス感染症の影響がある中、家庭教育サポート企業の協力を得て夏季・冬季の2回実施することができた。活動指標については計画値には及ばなかったものの成果指標については計画値を達成し、参加者の満足度は高く職業や仕事に対する関心が深まった。	自己分析： 活動指標は前年度より増加したものの、計画値を達成しなかった。プログラム内容により定員を設けているため計画値を達成するのは難しい。成果指標は計画値を達成し、様々な体験を通して仕事に対する意識を高める機会となり、キャリア教育、家庭教育の推進が図られた。	判断理由： 新型コロナウイルス感染症の影響により活動指標は計画値に及ばなかったが、成果指標は計画値を達成し児童期から職業や仕事に対する意識付けをし、キャリア教育の推進、家庭教育支援の推進に一定の成果があった。効率性については、職場体験に伴う車借上料に補助金を活用し経費の縮減を図っていることを踏まえ、総合評価は「良好である」と判断した。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：		
	今後の方向性				現状のまま継続												
	方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)	R5： 今後キャリア教育がより一層重視されていくことを踏まえ「現状のまま継続」とする。				R8：				R10：							

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名: 利用団体数	指標の求め方: 学校開放使用許可団体の数
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名: 年間延べ利用者数	指標の求め方: 年間延べ利用者数

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画					第7期	
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	総合計 合計	
指標	活動指標 1 (単位/団体)	計画値 実績値	27 25	27 19	27 19		27	27	27		—	—	—	—			
	成果指標 1 (単位/人)	計画値 実績値	15,900 8,129	15,730 12,433	15,570 10,039		14,090	13,920	13,750		—	—	—	—			
事業 評価	評価内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				ほぼ達成されている											
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)				少し上がっている											
		事業の効率性 (事業費に対する成果)				変わらない											
		総合評価				良好である											
		総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析: 新型コロナウイルス感染症の影響により事業を休止した期間があったため、成果指標が計画値を大きく下回ったものの、年間を通して使用する団体や利用者が概ね円滑に活動できている。また、新型コロナウイルス感染症防止対策に係る実施状況の点検を行った。	自己分析: 新型コロナウイルス感染症の影響により活動指標・成果指標ともに計画値を下回っているものの、成果指標については昨年度より上がっている。感染症対策を行いながら活動は円滑に展開できている。	自己分析: 人口減少やコロナ禍を経て社会活動が低下した影響もあり、活動指標・成果指標ともに計画値を達成しなかった。利用者数は減少しているものの学校施設を有効に活用し、地域住民のコミュニケーションを図る場として、子どもから大人まで異年齢の学習活動の場として重要な役割を果たしている。	判断理由: 新型コロナウイルス感染症の影響により活動指標・成果指標ともに計画値を下回っているものの、学校の施設を有効に活用し「自主運営・自主管理」しながら地域をつながりをもち、子どもを育てるより良い環境づくりと生涯学習の推進に一定の成果があった。効率性については、大きく変化していないことを踏まえ、総合評価は「良好である」と判断した。	自己分析:	自己分析:	自己分析:	判断理由:	自己分析:	自己分析:	自己分析:	自己分析:	判断理由:		
	今後の方向性				現状のまま継続												
	方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)		R5: 学校を中心に市民が集い、交流を深めることで地域の教育力が高まり、地域で子どもを育てる環境づくりを推進するため「現状のまま継続」とするが、令和8年度の学校統合に伴う閉校後の各サークル活動について意向を調査し、検討を進める必要がある。				R8:				R10:						